



友われら 74



甲府市立北中学校
学校だより 特別号
2021年10月28日
文責 岡林健児

全国学力・学習状況調査の結果より

毎年、中学校3年生を対象として、1学期に実施されていた「全国学力・学習状況」調査が、2年ぶりに実施されました。(5月27日実施)内容は、「教科に関する調査(国語、数学)」と「生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査」の2種類からなり、その調査結果が、8月末、学校に届きました。その分析結果がまとまりましたので、概要をお知らせします。

学力調査(国語)の結果分析

【国語の平均正答率】
全国(公立)…64.6
山梨県(公立)…66

1. 本校の分類別集計結果より

(1) 学習指導要領の領域について

学習指導要領の4つの領域ごとの平均正答率は【話すこと・聞くこと】8割以上、【書くこと】6割以上、【読むこと】6割弱、【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】8割以上で、どの領域も全国よりも高い正答率であった。また、正答率については、全国や県平均と同じような傾向が見られた。【書くこと】の領域では全国を10ポイント以上上回った。

(2) 評価の観点について

学習指導要領における5つの評価の観点については、本校では【国語への関心・意欲・態度】6割以上、【話す聞く能力】8割以上、【書く能力】6割以上、【読む能力】6割弱、【言語についての知識・理解・技能】8割以上という結果で、全国をすべての領域で上回った。数値の大小に関しては、どれも全国・県と同じような傾向が見られたが、【国語への関心・意欲・態度】と【書く能力】の領域では全国を10ポイント以上上回った。

(3) 問題形式について

問題の出題形式ごとに本校の結果をまとめると、【選択式】7割以上、【短答式】8割以上、【記述式】6割以上という結果で、どの出題形式についても全国よりも高い傾向が見られた。また、【記述式】に関しては正答率が低いといわれている全国よりも10ポイント以上上回っており、文章の内容を考え、構成について工夫を凝らして具体的に書くことができたと思われる。

「選択式」…問に対して、示された選択肢の中から、正答を選ぶ。
「短答式」…問に対する正答を語句や数値などで答える。
「記述式」…問に対する正答を文章で記述する。

2. 設問ごとの集計結果より

(1) 正答率が90%以上の設問

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
①	話すこと 聞くこと	話す 聞く能力	選択式	質問の意図を捉える
②	伝統的な 言語文化	言語についての 知・理・技	短答式	文脈に即して漢字を正しく読む
③	伝統的な 言語文化	言語についての 知・理・技	短答式	文脈に即して漢字を正しく読む
④	書くこと	関・意・態 書く能力	記述式	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える

(2) 全国の正答率は低かったが、本校は5~6割正答していた設問

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
①	読むこと	読む能力	選択式	文脈の中における語句の意味を理解する
②	伝統的な 言語文化	言語についての 知・理・技	短答式	相手や場に応じて敬語を適切に使う

(3) 正答率下位3題

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
①	読むこと	関・意・態 読む能力	記述式	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ
②	書くこと	書く能力	選択式	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く
③	伝統的な 言語文化	言語についての 知・理・技	短答式	相手や場に応じて敬語を適切に使う

3. 成果と課題および改善点について

(1) 成果について

「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」全ての分類における本校の正答率は、全国や県と比較すると5～10ポイント以上高かった。全体的に、学習内容をしっかりと身につけている生徒が多いと考えられる。【読むこと】の領域は、4領域の中では全国や県と同様に本校も正答率は低い傾向にあるが、ただ、全国や県の正答率が半数に満たなかったのに対して、本校の正答率は6割近くであった。場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができていたからだと考えられる。また、全国的に無解答率が課題となっている中で、本校は1割以下であったことも大きい。

(2) 課題について

【読むこと】の領域では、条件を満たしている表現を文章の中から引用した上で、その表現から何がわかったかを書き、そこに自分の考えを具体的に書いていく作業が難しいようである。条件に沿って、伝わるように書く力をつけることが課題として挙げられる。
【書くこと】の領域では、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと」が押さえ切れていなかった。文章を推敲する際に課題がある。読みやすく、わかりやすい文章にするために、読み手の立場に立って文章を整えることが不十分であった。

(3) 改善点について

【読むこと】の領域においては、読む目的や意図を明確にし、読むことによって何を心得、どう活用していくのかという意識をもち、本や文章などの内容(文学的な文章・説明的文章など)や形態に応じてそれぞれの特徴を捉えて指導していきたい。新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事を考えることを大事にしたりして、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて、自分の考えをもてるような課題を設定していきたい。
【書くこと】の領域には、書いた文章を推敲することを意識させたい。授業の中で取り組んでいる「学びの記録」は、授業の中で学んだことをまとめながら、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながるものとして取り入れている。自分の言葉で「書く」ことによって、作品(教材)の内容をより理解することになるが、独りよがりな文章になることもある。そこに推敲の作業を入れ、読みやすくわかりやすい文章にするために、読み手の立場に立って文章を整えることを意識して取り組ませたい。

学力調査(数学)の結果分析

【数学の平均正答率】 全国(公立)…57.2 山梨県(公立)…57

1. 本校の分類別集計結果より

(1) 学習指導要領の領域について

学習指導要領の4つの領域【数と式】【図形】【関数】【資料の活用】の平均正答率はいずれも60%前後であり、どの領域も全国よりも5ポイント以上高い正答率であった。しかし、全国や県平均では【図形】領域が他領域よりも低い傾向が見られたが、本校は【資料の活用】領域がもっとも低い傾向が見られた。

(2) 評価の観点について

学習指導要領における4つの評価の観点のうち、本調査では3つの観点について調査が行われている。本校では【見方・考え方】【技能】【知識・理解】のいずれも50%を超える正答率で、全国をすべての領域で上回った。数値の大小に関しては、どれも全国・県と同じような傾向が見られたが、【見方・考え方】の領域では全国を10ポイント以上上回った。

(3) 問題形式について

問題の出題形式ごとに本校の結果をまとめると、【短答式】は約80%の正答率であった。【選択式】に関しては全国よりも低い傾向が見られ、全国よりも正答率が低かった設問がどれも選択式の問題だったことが影響していると考えられる。また、逆に【記述式】に関しての正答率は全国よりも10ポイント以上上回っている。また例年、無回答率が高くなる傾向であったが、全国よりも無回答率は低くなっていることがわかった。よって数学の言葉や根拠を明確にして説明や理由を書く力が身につけている生徒が多いことがわかる。

2. 設問ごとの集計結果より

(1) 正答率90%以上の設問

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
①	資料の活用	技能	短答式	与えられたデータから中央値を求めることができる
②	関数	知識理解	短答式	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる
③	数と式	見方考え方	短答式	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
④	資料の活用	知識理解	短答式	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる

※特に上記の①を含む以下の設問は全国よりも大きく正答率が高かったものである

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
⑤	図形	見方考え方	記述式	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること の理由を説明することができる
⑥	数と式	見方考え方	記述式	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ 理由を説明することができる

(2) 正答率下位3題

	領域	評価の観点	問題形式	出題の趣旨
①	資料の活用	見方考え方	記述式	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する ことができる
②	資料の活用	知識理解	選択式	相対度数の必要性と意味を理解している
③	関数	見方考え方	記述式	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

※ただし、③については正答率が全国よりも5ポイント以上上回っていた。

3. 成果と課題および改善点について

(1) 成果について

学習指導要領の領域ごとの本校の正答率をみても、全国や県と比較しても5%以上高いことから、学習内容をしっかりと身につけている生徒が多いと考えられる。全国的には【図形】領域の正答率が低い傾向がみられたが、本校の正答率は60%を超えている。その理由として、角の性質や平行四辺形になるための条件など、根拠となるものを明確にし、説明するような記述式の設問に関してもしっかりと数学の言葉を用いて書くことができていること、また無解答率が低いことが挙げられる。全国的に苦手傾向が見られる【関数】に関する記述式の設問についても、正答率が5ポイント以上上回っていた。

(2) 課題について

【資料の活用】領域は4領域の中でも正答率が低く、苦手としている生徒が多いと考えられる。中央値を求めたり、ヒストグラムから情報を読み取るような力は十分に身につけているものの、そこからデータの傾向を捉え、判断の理由を説明することや、資料を比較する際になぜ相対度数を用いるといいのか、その必要性や意味を理解することに課題があることが本調査でわかった。正答率も30%を下回る状況であるため、改善に向けてすぐに対応していきたいと考える。

(3) 改善点について

【資料の活用】領域に関しては、単に知識を与えるのではなく、それをどのように活用していくのか、またそこからどのような傾向が捉えられ、それをもとにどう判断し、説明することができるのかなど、仲間と意見を共有しながら様々な視点から考察できるような題材設定や課題提示を工夫していきたい。

【図形】【関数】をはじめとする様々な領域において、数学の言葉を用いて理由を説明したり、解決の過程を仲間に伝えたりする活動をこれまでも実践してきた。今後も日々の授業の中で、このような言語活動を積極的に設け、学習内容を深めるとともに、論理的な見方や考え方を育むことを意識していきたい。

学習状況調査(質問紙調査)の結果分析

1. 特徴的な質問項目

肯定的な回答が非常に高い(90%以上)質問項目

- 朝食を毎日食べている。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
- 人が困っているときには、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

- 友だちと協力するのは楽しいと思う。
- 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができています。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 国語の勉強は大切だと思う。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- 数学の勉強は大切だと思う。
- 数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている。

肯定的回答が低い(50%以下)質問項目

- ▼新聞を読んでいる。
- ▼今住んでいる地域の行事に参加している。
- ▼地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ▼1、2年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器を週1回以上使用した。
- ▼学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の生徒との意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上しようした。
- ▼これまで、学校の授業やその他の学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。
- ▼新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。
- ▼新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。

【生活習慣・学習態度】で全国平均を10pt以上上回る質問項目

- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている。

【生活習慣・学習習慣】で全国平均を10pt以上下回る質問項目

- ▼家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- ▼1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料を文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- ▼1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。

【教科学習】で全国平均を10pt以上下回る質問項目

- ▼数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

2. 本校の現状と課題

多くの項目で肯定的な回答が見られ、質問項目の約半分が全国平均を上回っていた。これまで家庭の理解や協力を得ながら、学校生活において重点的に指導してきたことが生徒に理解され、生活習慣として定着し、落ち着いた生活を送ることができている様子がうかがえる。

ただ、課題としては、次の三点があげられる。その第一は、家庭学習である。特に休日における家庭学習及びその計画性については、全国平均と比べてみても低い値となっている。第二は、思考力・表現力である。本校の生徒は、落ちついた雰囲気の中で、与えられた課題に対して前向きに努力する生徒が多い反面、自分の考えをまとめたり、発表したりすることに対しては苦手意識を持っている生徒が少なくない。第三は、授業等におけるICT機器の活用である。1学期にICT環境がほぼ整えられ、2学期からは各教科はもとより、様々な場面において、効果的な活用を図るべく、実践を積み重ねている段階である。

3. 課題に対する改善点

(1) 自主的に学習に取り組む意欲の向上

生徒は学習の大切さや必要性は理解しており、出された宿題や課題については、大半の生徒が期日も守りきちんとこなすことができる。ただ、自分自身で計画を立てて学習を進めることについては苦手とする生徒が少なくない。各教科において、授業と家庭学習のつながりを意識させるとともに、折に触れて自主学習の進め方を伝えていくことが必要であると考える。

(2) 思考力・表現力の育成

「甲府スタイル」の授業をモデルとし、ペアやグループを用いた協働学習場面の設定を心がけている。(感染症予防対策のため制限はあるが) 今後はさらにその協働学習が、他者との意見交換のみに終わることなく、多角的多面的な視点が加わる工夫をしていきたい。また、北中伝統の活動である「朝の自主活動」の時間における「スクラップ活動」も思考力・表現力向上のための試みの一つであり、今後も継続していきたい。

(3) ICT機器の活用

1学期には、一人一台端末として「Chromebook」が導入されるとともに活用のための環境整備が整えられた。2学期からは、「Chromebook」を「わかる授業」づくりのツールとしてはもとより、生徒同士のコミュニケーションツール、プレゼンテーションツールとしての効果的活用法について、積極的に実践しながら研究を深めていきたい。

北中では、分析で明らかになった成果や課題を3学年はもとより、全学年で共有し、課題点については、指導改善に取り組んでいきます。今後とも、北中教育へのご理解とご協力をお願いいたします。